

## 令和5（2023）年度第3回柏崎市総合計画審議会 議事概要

1 日 時 令和5（2023）年8月8日（火） 午後2時00分から午後4時00分まで

2 場 所 柏崎市役所1階 多目的室

### 3 出席者

- (1) 委 員 樋口秀会長、三宮真美副会長、相田浩委員、上杉英之委員、大石友子委員、岡田和久委員、  
神林明委員、近藤千鶴委員、嶋岡和美委員、霜田真紀子委員、竹井みどり委員、  
中山博迪委員、山田秀貴委員、吉田匡慶委員、
- (2) 庁 内 総合企画部長、財務部長、市民生活部長、危機管理監、福祉保健部長、子ども未来部長、  
産業振興部長、都市整備部長、上下水道局長、消防長、教育部長、
- (3) 事務局 企画政策課長、同課長代理、同企画係員

### 4 会議資料

#### 【事前配布】

- ・柏崎市第五次総合計画後期基本計画
- ・令和5（2023）年度柏崎市第五次総合計画進行管理報告書（案）（令和4（2022）年度実績分）

#### 【当日配布】

- ・次第
- ・令和5（2023）年度第3回柏崎市総合計画審議会 席次表
- ・「第五次総合計画進行管理報告書（案）」正誤表

### 5 会議概要

- (1) 開会 総合企画部長から開会宣言
- (2) 会長挨拶
- (3) 議事進行に当たっての留意点等
- (4) 議事

#### ① 前回の審議会の内容について

前回の主な議事内容及び目標指標の概要を事務局から説明

#### ② 質疑、意見交換

#### ③

委員により次のとおり審議が行われた。

発 言 者

発 言 概 要

#### 目標指標の概要説明及び前回の審議会の内容について

（事務局が前回の主な議事内容及び目標指標の概要を説明）

意見なし

#### 【第4章 教育・スポーツ ～『たくましさ』をつなぐまちをめざして～ P.24、P.44～49】

（事務局が評価読み上げ）

委 員 : 24ページの評価のコメントで、単年度の評価はなじまないと書くと、目標設定した意味が感じられない。このような指標の場合、単年度の評価はなじまないと考えるが、中期的に見て、上昇傾向又は下降傾向であるなどと、記載すると良いのではないかと。

教育部長	表記については参考にさせていただきたい。また、49ページのそれぞれの指標の内容についても、市としてできる限り支援をしていきたいと考えている。
委員	第4章においては、新型コロナウイルス感染症が主要因であるという表記が多い。コロナ禍を加味しない場合はどのような数値になるのか、併記すると分かりやすいのではないか。
委員	第2回審議会でもお伝えしたことで繰り返しになるが、各章の評価に、重点戦略1、2の内容も絡めて、記載してほしい。
教育部長	コロナ禍を要因に記載している部分が多いが、それ以外の理由を参考値としての記載が可能かどうかは、事務局と相談したい。
事務局	各章の評価の記載については、どのような表記が良いのか、事務局で検討中である。
委員	45ページ、体力テストの項目で、要因分析でコロナによる活動制限が書かれているが、全国どこでも共通だと思う。他の要因も考えられれば書いた方が良い。 また、「地域行事への参加」、「地域・社会への参画意識」の2項目の質問に対する望ましい回答の割合の指標で、「望ましい回答」という表記があいまいなので、具体例を挙げたらどうか。
委員	45ページのこの目標指標は、小学校、中学校と記載されているが、調査の対象は小学校6年生及び中学校3年生であるか。
委員	同じく45ページのこの目標指標で、小学校と中学校を分けて示してあり、それぞれ要因分析をしているが、地域行事はほぼ同じ行事だと思うので、この要因分析の表記では、理由にならないのではないか。中学生であれば、部活や大会などで参加の機会が減るので、そうした要因分析にしてはどうか。また、44ページの「国語及び算数・数学の勉強は好き」と回答する児童生徒の割合の指標で、それぞれの要因分析をしているが、県などの指導により授業の工夫をすべき点は一緒であると思うので、なぜ小学校だけが好きではない数値なのかを記載すると良いのではないか。 46ページの教職員ICTには、コロナ禍を理由とした記載になっていないが、コロナの影響を受けなくてもこの数値になっていたのか。また、ICTの意味についても、注釈を入れると分かりやすいのではないか。
委員	46ページの、「学校の教育活動及び家庭との連携による児童生徒の生活習慣改善の取組」に関する学校の自己評価結果の指標については、当初からずっと86という数値が続いているが、3年連続で同じ数値が続くものなのか。
委員	44ページの「国語及び算数・数学の勉強は好き」と回答する児童生徒の割合は、ここ2年減少傾向であり、危機感を持つべきである。工夫が必要と分析しているが、前向きにする策があるか。また、中学校ではどんな工夫があったか記載すると良い。
委員	45ページの地域行事への参加について、数値が低いと感じる。クリーンデーなどには子どもたちも積極的に参加していると思うが、子どもたちがそれも含めて地域行事であると理解して調査に回答しているか疑問である。ここで指す地域行事とは、どこまでの範囲のことを指し示しているのか。
会長	紛らわしい指標であるが、おそらく%ではなく、新潟県との比較だと思われる。
委員	46ページの「保幼小中の連携による児童生徒の円滑な就学や途切れない指導・支援が推進できた」とする学校の自己評価結果の指標は、具体的にどのような学校教育における実践を行ってきたか。また、どなたが評価しているのか。個人的

な話だが、学習支援協力員をしており、家庭の事情で塾にいけない子などの勉強を見ている。春休みに開催された集合型学習会で、田尻小学校を卒業した直後に来た子が、次に入学する東中学校へ提出する課題に一生懸命取り組んでおり、その連携に驚いた。他にどのような連携があるのか。

委員： 45ページの体力測定の指標では、新型コロナウイルス感染症を理由としているが、全国的にコロナ禍であるため、要因分析としては今一つではないか。同様に、地域行事への参加の指標2つについても、県との比較であり、同じようなことが言える。

また、44ページで、小学校と中学校で目標値が違うのはなぜか。

教育部長： 45ページの体力テストの指標については、新型コロナウイルス感染症の影響は全国的に言えることであるため、表記について工夫したい。もともと全国平均より高かったが、たまたま令和4(2022)年度落ち込んだものであって、これが今後も続くとは考えていない。また、対象は、小学校1年生から中学校3年生の全体の平均値である。

45ページの地域行事の指標について、小学校、中学校としか表記していないが、調査の対象は、小学校6年生及び中学校3年生である。また、望ましい回答という表記があいまいなため、具体的に記載したらどうかという点については、小学校6年生であれば、「今住んでいる地域の行事に参加している」、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の2つの問いに対し、「当てはまる」又は「どちらかと言えば当てはまる」を選択したものを、望ましい回答としてカウントしている。また、この指標で、小学生と中学生の数値に差があるという点については、コロナ禍から少しずつ行事が復活してきたためと捉えている一方で、中学生で下がった要因としては、中学生が参加可能な行事や、関心のある行事の復活にまでには至っていないのではないかと考えている。

事務局： この45ページの指標は、県との比較であり、県より何%上回っているか又は下回っているかという考え方になる。

教育部長： 44ページの、「国語及び算数・数学の勉強は好き」という指標の要因分析に記載された授業改善については、教育委員会では令和4(2022)年度～令和6(2024)年度の3年間で、全国平均及び県平均を3～5ポイント上回るという、学力向上プロジェクトを立ち上げた。その際、すべての小中学校ごとに授業改善プランを作成し、プランに沿って全教員が同じ認識の下、授業を進めた。それが、ここで記載した授業改善であるが、なかなか浸透しきれていないと考え、小学校の要因分析として、更なる工夫が必要だと記載したものである。

46ページの教職員のICT活用研修の受講者数については、コロナ禍が原因ではないかという御質問もあったが、国が推進するGIGAスクール構想に沿って、ICT教育を進めていくものであり、直接的に新型コロナウイルス感染症とは関係しないものである。417名は研修に参加した人数であるが、内訳としては、上越教育大学の先生を講師に招いたリモート研修で235名、学習用タブレット研修、情報モラル研修などにおいて182名が参加した。今後も継続して、目標達成したい。

また、同じく46ページの「学校の教育活動及び家庭との連携による児童生徒の生活習慣改善の取組」に関する学校の自己評価結果の指標について、連続して86という数値となった理由については、各小中学校の管理職が自己評価したものであり、たまたま3年間同じ数値が並んだものである。内訳としては、小学校88.3%、中学校で81.8%である。

44ページの、「国語及び算数・数学の勉強は好き」という指標については、その年度の小学校6年生と中学校3年生が回答しているものであり、前年度との比較はなじまないが、それぞれ、学力が向上することで勉強が好きになることへつながると思うので、学力向上のための授業改善について、考えていく。

46ページの「保幼小中の連携による児童生徒の円滑な就学や途切れない指導援が推進できた」とする学校の自己評価結果の指標は、各小中学校の管理職が調査に回答しており、小学校で83.4%、中学校で75.8%であった。主な活動としては、市の特別支援教育会議という68名で構成される組織の中で、様々な部会があり、就学支援などの検討をしている。

45ページの3つの指標すべてにおいて、新型コロナウイルス感染症は理由にならないという御指摘をいただいたが、表記の方法を検討したい。

44ページの同じ目標指標でも、小学生と中学生の目標値に差がある理由については、それぞれ当初の数値を基準として、どれだけ目標を上げていかなければならないかという視点で令和7(2025)年度の目標値を決定したためである。

事務局： 補足になるが、44ページは計画策定時に、当初の値と比べて、これだけ増加すべきだという数値を目標値として設定したものであるため、小学校、中学校でそれぞれ目標値が異なることを御理解いただきたい。

委員： 46ページの保幼小中の連携について付け加えると、学習支援協力員の中には、登校拒否や発達障害のなどの問題を抱えた子どもを長く支援している方もいる。そういう協力員の中には、社会福祉協議会や市の福祉課や学校教育課の方も参加される学習支援協力員の集まりの場で、学校の担任の先生との情報交流を希望する旨の発言を何度かされた方もいるが、なかなか動きがみられない。組織間の連携にとどまらず、一人の子どもを中心に、その子に関わる周りの大人が協力・連携できるようになると、状況が改善しやすくなるのではないかと思う。教育分野でも、ケアマネジャーを中心に看護や福祉の専門家がチームで対応する介護保険のように連携ができれば良いと感じている。

委員： 全国学力学習状況調査は以前から行っており、小学校6年生と中学校3年生を対象としているので、指標のタイトルなどに追記すると良い。

また、ICTの指標については、小学校3年生から中学校3年生の児童生徒全員にタブレットを配っている中で、モラルの問題もあるが、子どもは柔軟ですぐに使いこなしていると感じている。

体力テストについては、以前は全国平均より結果が低かったが、新潟国体に向け、県が1学校1取組を実施し、全国的にも上位を占めるようになった。

教育部長： 今後も、関係機関が一体となって、子どもたちの過ごしやすい環境を作っていくことに力を入れて取り組んでいく。

また、体力テストの指標に関して、現在も1学校1取組を実施し、小学校では20分休みに学年に応じて走る距離を定めるなど、学校単位で取り組んでいる。

委員： 小学校の課題を中学校に提出するという話を聞くと、小学校で教えきれていないのではないかと感じる。小学校のうちに理解できるよう、しっかりと教えきってもらいたい。また、第4章では県との比較の指標もあるが、コメントとして、全国との比較でできると良いのではないか。

教育部長： 県との比較の他、全国との比較などは、記載できるか検討したい。また、学力向上に関しては、学力が向上することにより、勉強が好きということにつながると思う。小学校の段階で授業を改善し、子どもたちの学習意欲の向上につなげ

	たい。
委員	： 分かりやすい授業を行い、子どもたちが勉強が楽しいと思うようになれば、自ら進んで勉強をやるようになるものである。
教育部長	： 令和4(2022)年度で言えば、秋田県や東京都など、成果を挙げている自治体に視察に行っている。それも含めて、記載を検討したい。
委員	： 44ページの「国語及び算数・数学の勉強は好き」という指標において、当初の数値で小学校6年生の子どもたちは、令和5(2023)年の指標で中学校3年生として出てくる。67.6%という数値が、中学校3年生になってどれくらい落ちるのか、また、上がるのか、そこを注視すると、3年間積んできた教育が繋がっているか見えると思う。
教育部長	： 学年による傾向が顕著に出やすい指標である。数値に注視して、今後に生かしていきたい。
委員	： 48ページのブルボンウォーターポロクラブ柏崎のサポーター人数で、ブルボンKZはKPIになっていることを認識しているか。前回の範囲だが、同じ視点で言うと、観光協会との連携という言葉が多く見受けられるが、観光協会も総合計画のKPIを認識しているのか。また、活動計画や実施報告などは把握しているのか。
委員	： 47ページの生涯学習地域人材バンク登録者数は、要因分析が高齢化による減少という一行のみで、分かりづらいため、もう少し要因を書いた方が良い。
委員	： 同じ指標で補足すると、広報計画など、もう少し分析できるのではないか。
委員	： 49ページに、全国入賞数など様々な指標があるが、45ページの体力テストの指標や前回の審議会で審議した肥満の割合の指標など、新型コロナウイルス感染症が子どもたちに大きな影響を与えていると思う。これが一過性のものなのか、今後も続いていく傾向なのか分からないが、柏崎の未来を担う子どもたちに大きな変化が起きている、など、24ページの第4章の評価欄にコメントを入れたらどうか。
委員	： 48ページの市内体育施設利用者数の延べ人数について、参考として年代別や性別のデータがあったら良いのではないか。
会長	： データの記載は難しいが、要因分析への記載を検討しても良いかもしれない。
委員	： 49ページのすべての指標において、全国大会出場はすごいことだと思う。達成状況Dは、表現としてかわいそうであるため、より良い表現があると良い。
教育部長	： ブルボンウォーターポロクラブ柏崎とは、KPIを共有している。東京オリンピック前までは、市民を挙げて応援していく機運が高まっていたが、終了後はサポーターの人数が伸び悩んだ。47ページの生涯学習地域人材バンクの指標についての要因分析が1行では分かりづらいため、御指摘については、教育委員会では、「自然科学」や「スポーツ・健康」など7分野に分けて講師を登録しているが、従来から活動が活発でなかったことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ますます機会が失われた。今年の2月に更新の案内をしたが、活躍の場面がない点や高齢を理由に、辞退した方が多かった。周知としては、広報かしわざきに事業活用の案内や会員募集の記事を掲載した。 また、49ページの全国や世界に通用する競技者を育てる施策については、未来を担う子どもたちに対して、コメントを総括として記載するかは、事務局と相談し検討したい。全国や世界大会に出場することだけでも立派であるのにD評価になってしまうのは残念だが、評価基準であるため、やむを得ないことと御理解いただきたい。体育施設の利用者数について、年代別や性別ごとに利用者数を記載

するのは難しいが、数値を調べ、要因分析に記載できるか検討したい。

産業振興部長： 38ページの延べ宿泊者数における外部団体との連携については、柏崎観光協会とも連携して取り組んでおり、今後も連携を深めていく。

委員： 48ページのブルボンウォーターポロクラブ柏崎のサポーター人数の要因分析については、新型コロナウイルス感染症の影響というより、東京オリンピックの影響が強いと考えられるため、再度、要因分析を検討していただきたい。また、私たち市民も、ブルボンウォーターポロクラブ柏崎をもっと応援していく。

## 【第5章 魅力・文化 ～『柏崎らしさ』をつなぐまちをめざして～

P.25、P.50～52

(事務局が評価読み上げ)

委員： 51ページの柏崎地域国際化協会賛助会員登録数の算出方法について、年会費納入者数をもって実数とする、とした方がいいのではないかと。

委員： 50ページの移住定住に関する相談人数は増えていて喜ばしい。先日、新規就農者の集まりで、アグリパスという制度を利用して地域に新規就農者として来ている人がいた。移住定住においても、仕事をしなくて移住する人が、仕事の選択肢の一つとして、農業を選んでくれるよう、PRしていきたい。

委員： 52ページの2大学の進学定員数に対する充足率については、全国的に少子化に伴って充足率が下がっていることが前提にあるが、要因分析として、都市部の大学等への流出だけでなく、新潟産業大学の場合、留学生がコロナ禍で入国できなかったという理由もあるため、要因分析に追記すると良いのではないかと。

総合企画部長： 50ページの移住定住に関する相談人数については、コロナ禍で相談の機会が減少していたが、令和4(2022)年に少し緩和されたことが、数値の増加理由としては大きい。相談者の中から1人でも多くの人に来てくれるよう、取り組んでいる。新規就農については、産業振興部において、国とも連携しながら事業の拡充を検討しているところであり、今後、PRしていきたい。

52ページの2大学の進学定員数に対する充足率については、留学生が入国できなかったことも要因の1つであるため、記載を検討する。

産業振興部長： 51ページの柏崎地域国際化協会賛助会員登録数の算出方法については、御指摘のとおり、登録者数とさせていただく。また、要因分析についても個人と団体で同じ内容であるため、変化をつけた分析となるよう検討したい。

委員： 50ページの柏崎ふるさと応援基金は、ふるさと納税と一緒にあるか。

総合企画部長： 全く一緒の制度であり、独自に応援という言葉を入れている。同じものと分かるよう、注釈を入れることを検討したい。

委員： 52ページのアルフォーレの利用者数について、コロナ禍を理由としているが、イベントがなくなったことにより減少し、イベントが増えたことで利用者数も増加したものか。普段の利用者とイベントの利用者を分けて記載できると、分かりやすいのではないかと。

教育部長： 令和3(2021)年度は中止するイベント多く、開催したとしても座席の間隔を空けて実施したことにより、利用者が伸びなかった。記載について工夫したい。

## 【第6章 自治経営 ～多様な主体と共創し共育するまちをめざして

P.25、P.53～57】

(事務局が評価読み上げ)

委員： 53ページの市の審議会等の女性登用率について、算出方法で、委員総数が母

数となっているが、現在、委員数が何人くらいいるのか。

総合企画部長： 委員数は、合計575名である。審議会の総数も含め、表記を検討したい。

委員： 54ページ、コミュニティセンター利用者数で、他の指標は新型コロナウイルス感染症の影響で、令和3(2021)年に落ち込んで、令和4(2022)年に回復する傾向が見られるが、令和3(2021)年も前年度より少し上昇している。参考までに、令和元(2019)年の数値が分かれば教えていただきたい。

市民生活部長： 令和元(2019)年の利用者数は、402,482人であり、令和2(2020)年度に一気に利用者数が落ち込んだ。同年から施設の休館が始まったものが、徐々に回復し、少しずつ利用者が増加したものである。

委員： 54ページの柏崎リーダー塾を卒塾した後に地域活動に取り組む人数の指標で、卒塾後に地域活動に取り組む人数に絞ると、1人しか増えておらず少ないと感じる。リーダー塾に入塾する人は、高い意識持って入る人が多いと思う。ここでいう、地域活動が明確になっていると良いのではないか。

総合企画部長： 指標の算出方法にあるとおり、リーダー塾で提案した活動を継続している人や、附属機関の委員及び市議会議員などが対象となっている。大きな視点で地域活動というと、多くの卒塾生が取り組んでいるものと考えます。

委員： 自分自身、3期の卒塾生であるが、チームでの活動として、男性のための育児サイトを作った。この審議会委員も、まさにこの指標の人数にカウントされている。

委員： 56ページのホームページ閲覧者数で、数字は目標達成していて良いと思う。要因分析として、新型コロナウイルス感染症関連の情報のアクセスを記載しているが、それとは別に、行政手続きの電子化や、インターネット申請などの利便性を高めたことも理由ではないかと感じている。前向きな理由も記載してはどうか。

総合企画部長： いろんな要因があると考えられるが、アクセス数を伸ばすため取り組んでいることなど、掲載を検討したい。

委員： 総合計画の中身の部分で、第6章の自治経営という章立ては範囲が広いが、経緯を伺いたい。

総合企画部長： 第1章から第5章までは、『〇〇らしさ』という共通の表現を使用しているが、第6章の自治経営は、内容が行政全般であり、『〇〇らしさ』という表現がそぐわない。多種多様になってくる行政経営、あるいは行政対応のニーズをしっかりと把握し、どういう方向性で進めていくか審議し、決定したものであるため、第1章から第5章までとは表現を変えていることを御理解いただきたい。

委員： 57ページの未利用地売却面積について、当初から大きく数値を上げているが、最初はどの程度であったか。

財務部長： 市の全体の未利用地の面積を示すのは難しいが、要因分析で示すことを検討したい。

会長： 経常収支比率や将来負担比率についても確認中だが、良い方向に向かっているのか把握できるか。

財務部長： 決算の数字を議会に報告した上で決定するものであるため、現在、状況をお伝えできる数値ではないことを御理解いただきたい。

委員： 56ページの実質公債費比率について、すでに目標値11.1を超えているが、目標値として妥当か。

- 財務部長： 借金がどのくらいあるかという比率であり、経営をする上で、低ければ良いということではない。ある一定程度の割合で示している。
- 会長： 24、25ページの評価で、第1章及び第2章はすべての節について記載しているが、第3章から第6章に第2節の記載がないことに、理由があるか。
- 事務局： 第5章については、第2節の目標指標が1つしかないという点で、省略させていただいた。第6章第2節については、それぞれの評価がまとまるような内容ではなかったためであるが、いただいた御意見を参考に、少しずつでも触れるよう記載を検討したい。

**議題の全体について**

**P.24~25、P.44~57】**

- 委員： 48ページの市内体育施設には、コミセンは入っているのか。また、全部でいくつの施設が含まれているのか。
- 総合企画部長： 担当部長が退席したため、後日回答させていただきたい。  
(スポーツ振興課に確認：指定管理施設15施設、直営施設2施設、高柳スキー場1施設、市内小中学校31施設の全49施設)
- 委員： 第6章の第2節の主要施策1に「市民力」という言葉が出てくるが、目標指標をみると、パブリック・コメントについてと柏崎リーダー塾の2つだけである。市民の力そのものではなく、市民の環境を充実させる指標であることを、25ページの第6章の評価で触れたらどうか。
- 事務局： 評価欄に追記するか検討する。
- 委員： 54ページのパブリック・コメントの指標について、提出したいという意欲が湧くような対応も要因にあるのではないかと。市で決定したことについて、私たち市民の意見で簡単に変えることは困難であるが、せっかく意見を出しても、ほとんどが対応無しである。目標指標として設定されているのであれば、対応についてもっと検討すると良いのではないかと。
- 総合企画部長： すべて叶わないわけではなく、計画に反映させることもあるが、数としては少ない。御意見を参考にし、少しでも意見を出しやすいような環境となるよう努めたい。
- 委員： 52ページのWEBミュージアムアクセス件数について、要因に、「わたしたちの柏崎」更新作業に伴う増加とみられる、と分析しており、そもそも実数ではない。要因分析として、これで良いかと。
- 総合企画部長： 要因分析の表記について確認し、修正するか担当部局と検討したい。

(5) その他 次回開催予定 総合戦略及び過疎計画進行管理 8月22日(火) 14:00~16:00

(6) 副会長挨拶

(7) 閉会